第３　問題作成部会の見解

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，歴史的な見方・考え方を働かせながら，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』では，「歴史総合」で学習したことと，それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解を伴った知識を活用して，例えば，教科書等で扱われていない資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や，仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答結果

第１問　『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第１問と同じ。

第２問　学習指導要領日本史探究１目標のうち，⑴「我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに，諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能」及び⑵「我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力」を十分に身に付けているかどうかを問うべく，「技術の進展と社会の変化」をテーマとして，通史的に作問した。木綿に関する博物館の展示を学習活動の舞台にすることで，自主的な「探究」を促すことを意識した。難易度については，おおむね標準的であった。

第３問　学習指導要領日本史探究２内容に大項目Ａとして示されている「Ａ原始・古代の日本と東アジア」を踏まえて作問した。そこに述べられているように古代の国家や社会の展開について，「主題を設定し，小国の形成と連合，古代の国家の形成の過程について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察」させるべく，中央と地方・辺境の関係を中心的なテーマとし，高校で学習した知識を踏まえた上で，史料の読解・分析や判断力を問うたり，諸事象の関連付ける能力を問うような設問とした。「古代日本の特徴に関する探究活動の場面を基に，古墳時代から平安時代までの政治史と文化史について問う問題」，また「古代日本の特徴についての複数の仮説を検証する探究活動が題材である」と評価された。難易度については，おおむね標準的であった。

第４問　学習指導要領日本史探究２内容Ｂ「中世の日本と世界」の⑵「歴史資料と中世の展望」ア(ｱ)「中世の特色を示す適切な歴史資料を基に，史料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能」及びイ(ｱ)「歴史資料の特性を踏まえ，資料を通して読み取れる情報から，中世の特色について多面的・多角的に考察し，仮説を表現する」を踏まえ，中世の宗教と社会との関係を主軸に，⑶「中世の国家・社会の展望と画期」ア(ｱ)に示された武家政権の成立と展開，宗教や文化の展開についての理解を問うた。難易度は適正であった。

第５問　学習指導要領日本史探究２内容Ｃ（2）「歴史資料と近世の展望」ア(ｱ)「近世の特色を示す適切な歴史資料を基に，資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付けること」，⑶イ(ｲ)の「社会・経済の仕組みの変化，幕府や諸藩の政策の変化，国際情勢の変化と影響，政治・経済と文化との関係などに着目して，主題を設定し，近世の国家・社会の変容について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること」を踏まえ，藩（大名）の在り方を通じて，近世の政治・経済・社会・文化に関する総合的理解と，分析的・関連的・判断的思考力を問うことをねらいとした。難易度については，おおむね標準的であった。

第６問　学習指導要領日本史探究２内容Ｄ「近現代の地域・日本と世界」⑵「歴史資料と近代の展望」ア(ｱ)「近代の特色を示す適切な歴史資料を基に，資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付ける」及びイ(ｱ)「歴史資料の特性を踏まえ，資料から読み取れる情報から，近代の特色について多面的・多角的に考察し，仮説を表現すること」を踏まえ，近現代の農村及び農村青年を主題として，⑶「近現代の地域・日本と世界の画期と構造」にある「社会運動の動向」，「政党政治」を基にした「立憲体制への移行」の理解や，「産業構造の変容」，「社会問題の発生」を基にした「産業の発展の経緯と近代の文化の特色」の理解，「恐慌と国際関係」，「戦時体制の強化」を基にした「第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会，国民生活の変容」の理解，「戦後の経済復興」，「高度経済成長」を基にした「我が国の再出発及びその後の政治・経済」の理解を問うた。これを踏まえ，第二次世界大戦後の国民生活に着目して，「社会の変容」や「日本経済の発展」を多面的・多角的に考察し，その根拠を示して表現できることを目指した。難易度については，おおむね標準的であった。

３　自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

問題の表現については，「現代語訳された文字資料が多く提示され，必要な箇所には脚注が付される等，受験者の読解力ではなく，あくまで歴史の正しい理解を問うことに注力した問題となるよう考慮されていた」との評価をいただいた。問題の形式についても，「各大問における最終の小問に，歴史的な事象や概念，構造に関して検証・考察する問いが設けられていた」との評価もいただいた。総括的な評価としては「知識に裏付けされた思考力・判断力・表現力等を重視する学習指導要領の指針に合致」，「機械的・短絡的な思考や知識で解答させるのではなく，資料で示される歴史的事実を，正確な知識と関連付けて判断させる問いが多くみられ，受験者の基本的事項の正確な理解を適正に評価する問題であった。」との評価をいただいた。今後もこうした評価をいただけるよう継続して努力していきたい。ただし，いくつかの問いにおいては更なる選択肢の工夫が必要との指摘もいただいており，この点については次年度の課題としたい。

第１問　『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第１問と同じ。

第２問　問１は，絵画資料を基に，衣服の変化を問うた。「解説文と図１の情報を基に正誤を判断する力とともに，平安貴族の男性の正装である束帯に関する知識」を求めた設問と評価された。問２は，室町時代の外交関係に関する解説文の空欄に入る語句の組合せを問うた。「日朝貿易及び鉄砲の伝来に関する基礎的な知識」を求めた設問と評価された。問３は，江戸時代の農書に関して，メモの読み取りと教科書に記載されている知識を問うた。「メモを正確に読み取る技能と農書に関する知識」を求めた設問と評価された。問４は，明治政府の農業政策に関する知識を問うた。基本的な知識を問う設問と評価された。問５は，時代の転換と衣服や風俗の変化に関する知識を通時代的に問うた。「ジーンズの流行時期を判断する際に歴史総合で学んだ知識も活用するという新しい形式の設問」と評価された。

第３問　問１は，古代における地方の役人についての理解を問うた。「古代の地方制度に関する基本的な知識が求められた」と評価された。問２は，仏教の地方への広がりについての理解を問うた。「奈良時代と平安時代の仏教の特徴に関する理解が求められた」と評価された。問３は，遷都と東北地方に関する政策の同時代性についての理解を問うた。「古代における朝廷の対蝦夷政策に関する基本的な知識が求められた」と評価された。問４は，元慶の乱を示す資料についての読解力及び交通制度についての理解を問うた。「現代語訳された史料の読解と知識の両方が求められるが，「駅家」などの語句の暗記にとどまらず，律令制下の情報伝達に関する理解を問う良問であった」と評価された。問５は，蝦夷・南島による朝貢に関する資料の読解力及び律令制についての理解を問うた。「「大極殿」が何であるかの理解を求めており，具体的な場面についての記述と習得した知識とを併せて活用し，判断させるような学習指導が求められている」と評価された。

第４問　問１は，資料の記述を読み取らせるとともに，中世の戦乱の時代順を問うことで，情報を読み取る技能，政治史における歴史的事象の内容的理解を問うた。「単に歴史的事象の名称を覚えるのではなく，事象について正確な理解を必要とする良問である」と評価された。問２は，資料に関わる知識を問うことで，情報を読み取る技能，文化史における歴史的事象の内容的理解を問うた。鎌倉時代の文化史における内容的理解に関する問題。「文化財の写真を見て覚えるだけの学習にならないよう，(略) 資料やメモなどを併用した作問もあり得よう」と評価された。問３は，仏教勢力と朝廷・幕府に関して，会話文に問い及び問いに対する解決（考察）方法を提示し，その考察の結果を問うた。「会話文の下線がない部分の発言を読めば判断しやすくなるよう工夫されて作問された良問」と評価された。問４は，天文法華の乱に関する資料を示し，情報を読み取る技能，歴史的事象の内容的理解を問うた。「資料から正確に情報を読み取る技能とともに，その情報と室町時代の仏教に関する知識とを統合する思考力・判断力・表現力等」が求められる問題と評価された。問５は，問１～問４の内容と基礎的知識を総合し，中世における仏教と国家・社会との関係を理解することができているか，前後の時代との連続性・非連続性を理解できているかを問うた。「授業改善にも有用であり，こうした設問は歓迎したい」と評価された。

第５問　問１は，室町時代の守護と戦国・安土桃山・江戸時代の大名について問うた。「広い時代にまたがる知識が求められている」と評価された。問２は，江戸幕府（将軍）による諸大名の統制策について問うた。「江戸幕府の大名政策の推移などの正しい知識が求められた」と評価された。問３は，藩による専売制及び経世家の思想について問うた。「資料を正確に読み取る技能と，江戸時代の社会思想に関する基礎的な知識が求められた」と評価された。問４は，藩（大名）の特徴とその時期的な展開や変容（近代化）を問うた。「幕藩体制，江戸後期の藩政改革，廃藩置県に関する理解が求められた」と評価された。問５は，近世の都市の特徴やその近代における変容について問うた。「都市に関する知識とともに，正確に表を読み取る技能が求められた」と評価された。

第６問　問１は，大正期の政治運動とその影響に関する知識について問うた。「会話文中のデモ行進が第二次護憲運動であると判断する力とともに，その結果に関する正しい知識が求められた」と評価された。問２は，日記資料の読解力と，大正末期の政治・社会状況について問うた。「会話文と資料，それぞれから正確に情報を読み取る技能と，男子普通選挙制度に関する知識を統合する思考力・判断力・表現力等が求められた」と評価された。問３は，1920年代の文化や娯楽に関する知識について問うた。「大正末期から昭和初期にかけての文化史に関する基礎的な知識が求められた」と評価された。問４は，資料の読解力と，昭和戦前期の満洲政策の推移と

影響に関する理解を問うた。「資料を丁寧に読み，時期を判断するとともに，満洲移民の背景となる昭和初期の政治及び経済の推移・展開に関する知識を統合させる思考力・判断力・表現力等が求められた」と評価された。問５は，資料の読解力と，1950年代～60年代における社会・経済状況に関する知識・理解を問うた。「表から情報を正確に読み取る技能とともに，戦後の経済復興政策や農業政策に関する知識が求められた」と評価された。

４　ま　と　め

授業を通じて学んだ知識と初見資料から読み取れる情報とを併せて考察させる問題や，生徒自らが作った仮説を資料に基づき検証するような問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題など，新課程の趣旨を踏まえて作問に努めた。会話文の中に未知の歴史事象を織り込んだり，多様な形態の資料など多くの情報量を処理する出題形式を採用したが，文字資料をできる限り現代語訳して示すことによって，おおむね標準的な問題を作成できたものと考える。来年度以降も，以下の諸点に留意しながら，受験者の学力を適切に評価できる問題作成を進めたい。

⑴　高等学校教育の範囲と水準に深く配慮をしながら，標準的な問題を作成する。

⑵　高校現場での授業実践にも良いメッセージとなるような出題上の工夫をする。

⑶　文字資料だけでなく，画像・地図・表など多様な資料を提示しながら，歴史事象に関する深い理解に至りうるような問題の作成に工夫を凝らす。

⑷　授業や探究活動を通じて身に付けた資質・能力の到達度を明確に測れるような出題に努める。